

住まいとコミュニティづくりNPO交流会

Document

2015年9月5日(土)、大手町サンケイプラザにて
第11回「住まいとコミュニティづくりNPO交流会」を開催しました。
各団体の活動内容につきましては、
「第22回住まいとコミュニティづくり活動助成報告書」をご参照ください。



13:30～

開会の挨拶

財団理事長 高見澤邦郎



13:40～

活動報告I



北海道清里町
きよさと移住者ネット

【活動のテーマ】
創ろう!! 移住後の田舎暮らしを支えるネットワーク
【報告者】
原田香里さん、澤田真優美さん



山形県川西町
特定非営利活動法人
えき・まちネットこまつ

【活動のテーマ】
イザベラとひさしの町が蘇るツインタイムトラベル
【報告者】
遠藤有華さん、安彦光さん、江本一男さん



新潟県長岡市
特定非営利活動法人
醸造の町摺田屋町おこしの会
【活動のテーマ】
豪商の館「機那サフラン酒本舗」の
保全の為の地域活性化活動
【報告者】
平沢政明さん



福井県小浜市
特定非営利活動法人
WACおばま
【活動のテーマ】
伝統地場産業「アブラギリ」を核とした里山再生プロジェクト
【報告者】
鳥居直也さん



岐阜県中津川市
加子母むらづくり協議会
【活動のテーマ】
加子母木匠塾と地域との協働による明治座改修
【報告者】
佐野智哉さん

15:10～

活動報告II



東京都福生市
特定非営利活動法人
FLAG
【活動のテーマ】
福生、米軍ハウスから発信する地域活性プロジェクト
【報告者】
田中克海さん



広島県江田島市
ぐるぐる海友舎
プロジェクト実行委員会
【活動のテーマ】
築百年の洋館“海友舎”的
再生からはじまる記憶の継承
【報告者】
南川智子さん



三重県伊勢市
特定非営利活動法人
旧御師丸岡宗大夫邸
保存再生会議
【活動のテーマ】
町の記憶の宝庫・旧御師邸を核としたコミュニティづくり
【報告者】
丸岡正之さん、高橋徹さん



**三重県熊野市
かやの木会**

【活動のテーマ】
古民家を拠点とした過疎山村地域と
大学の交流による地域創造

【報告者】
久保智さん、松居和子さん

**京都府城陽市
ダッズ村プロジェクト**

【活動のテーマ】
ダッズ村 父子が創る父子の為の地域子育て支援拠点
【報告者】
吉川勝也さん、脇本尚憲さん、荒井圭一郎さん

今年度(第23回)助成対象団体の現況報告



**山梨県市川三郷町
市川マップの会**

【活動のテーマ】
江戸時代の酒蔵を拠点に地域の歴史文化の情報発信
【報告者】
一瀬茂さん

**宮崎県都城市
特定非営利活動法人
どんぐり1000年の森をつくる会**

【活動のテーマ】
「井戸」を掘り、どんぐり村での活動を拡大しよう
【報告者】
坂口秀一さん

選考委員からコメントをいただきました。



**東京大学 特任教授
窪田亜矢氏**

**法政大学 准教授
図司直也氏**

**せきゅうこ設計室 代表
関由有子氏**

**山下馨建築アトリエ 代表
山下馨氏**

**江戸川大学 特任教授
鈴木輝隆氏**

17:15～

閉会

懇親会

挨拶

財團事務局長
久田見卓

高橋徹さん
特定非営利活動法人
旧御師丸宗次夫邸保存再生会議

乾杯の音頭

中締めの挨拶
財團總務部長
竹林優一



Q&A

参加者から寄せられた質問と回答

当日参加された方から報告団体に対していただいた質問と回答は以下の通りです。



Q

A

芝居小屋や映画館の古い建物を調べているときに、
岐阜県に明治頃の芝居小屋が多いのに驚きました。
村歌舞伎や素人芝居の盛んな土地柄だったのでしょうか？
民俗学的な調査や研究もされているのでしょうか？

江戸時代、東濃地方(岐阜県南東部)は街道の交差点で、人や物がさかんに往来するところでした。その往来とともに行き来る都市の芸能文化を取り入れ易い環境であったことが、地歌舞伎の根付くひとつの要因であったと考えられます。祭りの日に各地の神社の舞台で催されていた歌舞伎などの芸能は、やがて地域の人々によって演じられるようになり、その人々の熱狂ぶりは、幕府から禁止令が出されるほどでした。
当時の東濃地方は尾張藩の領地で、東濃の木材が尾張藩の収入源であったことや軍事的にも大変重要な街道である中山道が通っている要所であったこともあり、民衆の不満のはけ口として芝居の公演も黙認されていたといいます。そういった背景も、地歌舞伎が守られる要因の一つであったと考えられます。
岐阜県の芝居小屋については、過去に『岐阜県の農村舞台昭和46年度岐阜県農村舞台緊急調査報告』(岐阜県教育委員会昭和47年3月発刊)、『農村舞台の総合的研究』(角田一郎著 昭和46年桜楓社発刊)による報告書があるようです。
《加子母むらづくり協議会》

Q

A

学生と協働したまちづくりを実施するにあたり、
どのように学生や学校がまちづくりに参加するようになるのか、
その経緯を教えてください。

最近 寄の大学がありましたらコンタクトをとってみる。最近の大学は地域とのつながりを重視しています。その際、やりたいことを明確に伝えることが重要です。学生が窓口でも必ず教職員に会ってきっちり話をすることが大切です。また、学生達が頑張っている姿を紹介することも重要です。しかし学生は不安定で数年経つたら卒業していきます。指導者の力が大きいと思います。窓口ができたらパイプを太くする努力を惜しまないことが必要です。小学校や中学校の場合は、担当教諭だけでなく、校長に会って話をすることも大切です。

《特定非営利活動法人醸造の町摺田屋町おこしの会》

昨日 年度中参加してくれていた臨床心理士の卵である学生は、元々、「子どもの幸せプロジェクト」という団体が集めてくれた学生さんです。その団体からの紹介で学生たちが各おやじの団体に配属されて、共に活動するというかたちでした(その学生さんも現在は就職されて、なかなか時間が合わずには参加から遠ざかっています)。

また、ダッズ村プロジェクトのメンバーが建築系の専門学校に勤務しておりますので、その学校の学生の為に社会と接する機会を設けるという名目で、できる限り参加を呼び掛けています。今後、更に調整をして、学生の学外での活動の場としてダッズ村を利用してもらおうと考えています。

ダッズ村が、未来の父親となる学生と様々な話ができる良い場所になってくれればと期待しております。

《ダッズ村プロジェクト》

か しも木匠塾など20年以上前から学生たちが地域に入り込んでいますが、具体的に学生たちが“まちづくり”について実践しているわけではなく、継続的に地域と学生たちが交流することによって、地域で当たり前のように行つてきたことへの価値を再認識できることが、大きな効果だと考えています。

《加子母むらづくり協議会》

御 まつくりのワークショップを親子対象で案内をしたところ、学区内と隣接学区の小学校の先生が参加されて、生徒の地域学習の一つとして取り上げたいとの要望を頂き、案内、説明を行いました。しかし、連携という段階までにはなっていません。

他の取組ですと、事業によっては学区の学校に直接お願いする場合と広く教育委員会(校長会という組織)を通してお願いする場合があります(河崎の隅蓋コンクール、賓日館の子供俳句大会等は伊勢市全体に広報)。

一般的には事業の趣意書を作成し、参加を要請します。先生に意識があるかどうかが分かれ目です。熱心な校長先生や担任がおられると良いのですが(賓日館の子供俳句大会はなかなかのものです)…

《特定非営利活動法人旧御師丸岡宗大夫邸保存再生会議》

学 校と協力して、以下のような事業を行っています。
○まちなみウォッチング⇒県内外の一般と教育委員会を対象に案内している

○「だから、わたしはこのまちが好きです。」Photoコンテスト⇒市川三郷町立中学校(4校)と小学校(3校)の生徒を対象に6回開催。中学校は全校生徒、小学校は高学年を対象に実施している。

○県立市川高等学校での講座「市川大門の歴史と文化の力を信じて」⇒旧二葉屋酒造(登録有形文化財)の解説を平成20年から毎年開催。

これらは、こちらから働きかけをしたものもあるが、先方からの協力要請などによるものもあります。助成対象活動の慶應大学とのコラボは、慶應大学講師のホヘル・アルマサン氏のゼミがきっかけとなったもので、学生達の活動には市川マップの会もその行動力に触発されています。

《市川マップの会》